

特集

増える非正規の学校職員と諸課題

非正規労働者の増加にともない、その歪みが大きな問題となっています。とりわけ、低賃金や雇用状態の劣悪さから「ワーキングプア」をうみだし、「ホームレス」「ネット難民」に陥る人も出ていることが大きな問題としてクローズアップされました。また、生活困窮から親との同居を余儀なくされ、自立結婚できないなど人口動態をも左右する状況も生まれてきています。この非正規労働の雇用形態は、経営者にとって都合の良い制度です。その拡大強化の理由に「経済のグローバル化に伴う競争の激化」「働くニーズにあった雇用形態の創造」などをあげていますが、根本には収益を最大限に得るための資本の論理がうかがえます。

そんな中で、県内では、5月18日に「非正規教職員の声(実態)を聴く運動実行委員会」主催の「報告検討集会」が開かれました。

ここでは、非正規の働き方により様々な問題がうまれていることが報告されました。労働法制が守られていない実態や、次年度への雇用不安・生活困窮・社会のセーフティネットから抜け落ちる不安など、非正規労働者の大きな苦悩。また、そのような状態に置かれながらも、教育活動に渾身のエネルギーを注ぎ続けている様子についても語られました。そして、このような安上がりの人事の横行が教育の質を下げ、公教育の崩壊につながるのではとの懸念が示されました。

そこで、今回の企画を通して、教育現場で行われている非正規労働の人事の実態、非正規労働者の悩み、共に働く正規労働者の思い、問題改善の取組などについて明らかにし、よりよい教育環境を作り上げていく方策を見つけ出す一助したいと思います。

編集部